

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2020/10/30

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは10月30日(金)9:00現在
※休日の実績は前営業日

		10月29日現在 (矢印は9月末比)	11月の予想
USD	ドル・円 (円)	↘ 104.61	↗ 103.00 ~ 108.00
	大統領選の結果判明とともに不透明感後退から上昇を見込む		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.167	↘ 1.13 ~ 1.19
	ユーロ・円 (円)	↘ 122.12	↘ 119.00 ~ 124.00
欧州各国のロックダウンによる景気悪化懸念が嫌気され下落			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	⇒ 1.293	↘ 1.25 ~ 1.32
	ポンド・円 (円)	↘ 135.28	↘ 132.00 ~ 138.00
ブレグジットへの不透明感や英中銀の追加緩和観測から下落			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↘ 73.52	↘ 72.50 ~ 76.00
	NZドル・円 (円)	↘ 69.34	↘ 67.00 ~ 71.50
新型コロナウイルス感染再拡大や追加緩和観測が上値を抑える			
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 23,332	↗ 22,000 ~ 24,000
	NYダウ (ドル)	↘ 26,659	↗ 25,000 ~ 29,000
大統領選リスクをはらむものの、不透明感払拭となれば底堅い			
長期 金利	日本 (%)	↗ 0.032	↗ 0.00 ~ 0.08
	米国 (%)	↘ 0.823	↗ 0.75 ~ 0.90
財政拡張による国債の増発が意識され金利は上昇			

◆ 今月の注目ポイント

11月3日はいよいよ米国大統領選挙

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	○	【欧州で新型コロナ感染再拡大が深刻化】欧州の一部の国でコロナ感染が再拡大しており、フランスやドイツ、スペイン等では行動制限を再度強化している。春先ほどの大規模な規制ではないが、景気回復に冷や水を浴びせよう。
金融 政策	○	【4-5日はFOMC】議会での追加財政協議への進展期待で米金利が足もとで上昇。FRBが金利をコントロールする国債買い入れについて、どのような見解を示すのかが注目される。
政治	◎	【3日はいよいよ大統領選挙当日】通常、日本時間の4日午後には大勢が決まるが波乱含み。コロナ禍で郵便投票が大きく伸びていることから結果の判明まで時間がかかる可能性も。またバイデン氏が勝利した場合には郵便投票の不正を理由にトランプ氏が敗北を認めないなどといったリスクもある。選挙結果を巡って混乱が起これば、マーケットはリスク回避の動きが強まろう。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	↗ 15.3 ~ 16.0	レアル・円	⇒ 17.7 ~ 19.2
バーツ・円	⇒ 3.25 ~ 3.40	メキシコペソ・円	↗ 4.80 ~ 5.40
ルピア・円	↘ 0.68 ~ 0.74	ルーブル・円	⇒ 1.28 ~ 1.38
ルピー・円	↘ 1.38 ~ 1.45		

◆ 今月の重要日程

2日(月) 米	10月ISM製造業	12日(木) 米	10月CPI
3日(火) 豪	中銀会合	16日(月) 日	20/3Q GDP1次速報
3日(火) 米	大統領選挙	16日(月) 中	10月生産・小売・投資
5日(木) 英	BOE金融政策委員会	17日(火) 米	10月小売売上高
5日(木) 米	FOMC (結果発表)	20日(金) 日	10月CPI
6日(金) 米	10月雇用統計	23日(月) 欧	11月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

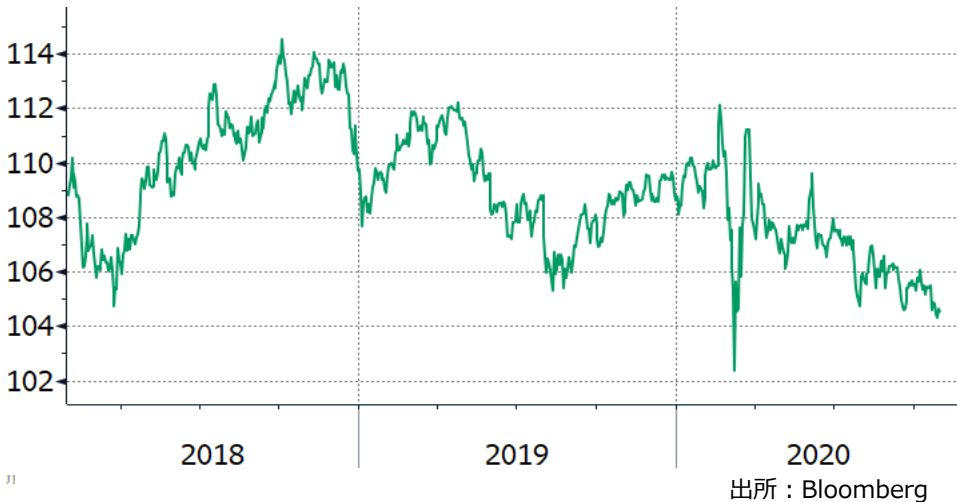
ドル 円

米ドル・円



ドル・円は上昇

103.00 – 108.00円



大統領選の結果判明とともにドル円は上昇を見込む

米大統領選の結果を踏まえた展開が最大のポイントとなる。大統領選の結果が判明すれば、米政治に対する不透明感の後退から一旦はドルの買い戻しが優勢となりドル円は上昇を予想する。

大統領選の結果と共に重要なのが議会選挙の結果。足もとの追加財政議論がまとまらない背景は議会のねじれが主因。上下院ともに民主党がとるケースであれば大型財政による米景気拡張期待から対円でのドル高が進みやすいとみる。その場合のドル円の上値目途としては11月中107円台を予想。一方で議会がねじれた場合には追加財政協議がまとまらないリスクも懸念され上昇幅は相対的に小さいと予想している。

ただし今回の選挙ではテールリスクとして、郵便投票の実施により選挙結果の判明が遅れる可能性が指摘されている。11月中に結果判明しなかった場合、リスクオフの円高進行によりドル円は100円近辺までレンジを切り下げる可能性に注意が必要とみる。

ユーロ

ユーロドル



ユーロドルは下落

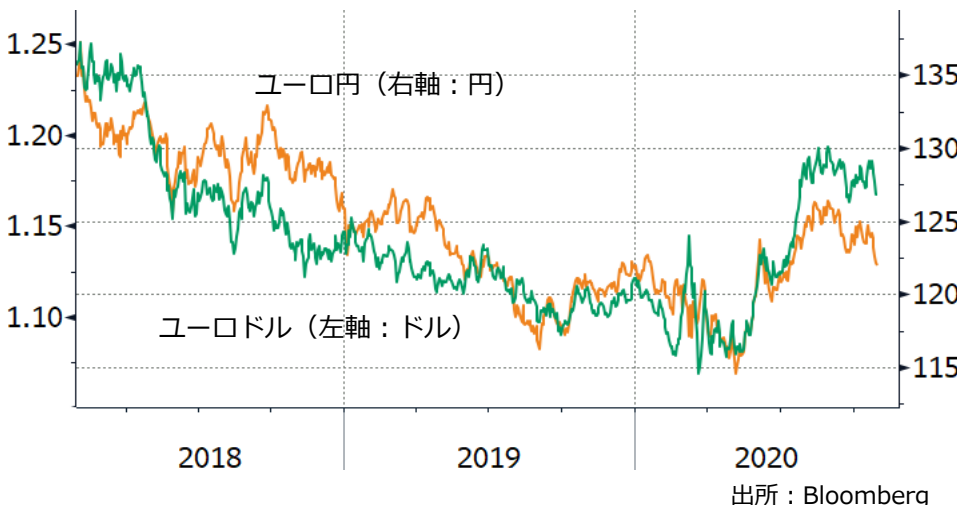
1.13 – 1.19ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

119.00 – 124.00円



ユーロドル、ユーロ円はともに下落を予想

10月はユーロドル、ユーロ円ともに狭いレンジでの動きとなった。欧州ではコロナ感染の再拡大を背景に、各国では制限措置を再実施、特にフランスやドイツに関しては大規模なロックダウンの実施を発表しており、ユーロの押し下げ要因となった。29日に開催されたECBでは主要な政策に変更はなかったが、先行きの景気悪化懸念から12月の会合で追加緩和の可能性が高まった。

11月は、フランスやドイツの行うロックダウンの影響やその他欧州各国での行動制限措置の拡大などが嫌気される展開を予想。また、既に織り込まれている復興基金について、開始時期の遅れや各国間の意向が改めて対立する可能性があり、ユーロの下落要因となろう。加えて、米国の大統領が決まり、不透明感が後退すればドルが買い戻され、ユーロの下押し圧力となろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

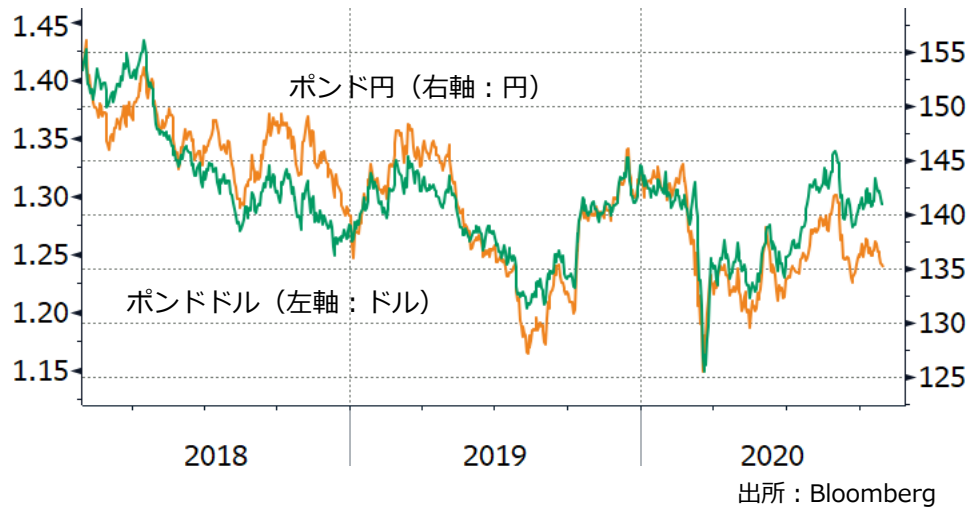
© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポンド



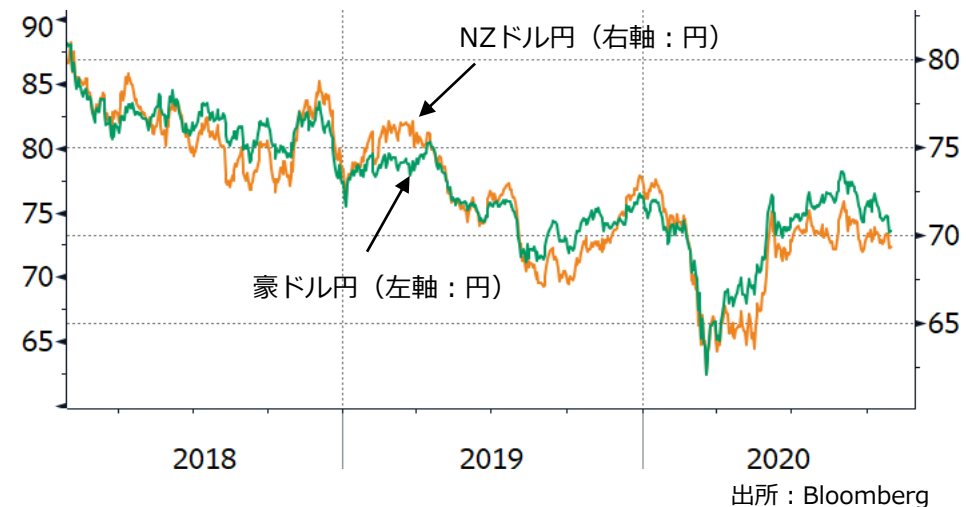
ポンドドル	ポンドドルは下落	1.25- 1.32ドル
ポンド円	ポンド円は下落	132.00 - 138.00円

ポンドドル、ポンド円はともに下落を予想

英国はEU離脱の交渉期限を10月15日のEU首脳会合までと定めており、期限後は協議を一時中断していたが、22日より再びEUとの協議を再開。EUの離脱交渉の責任者であるバルニエ氏が離脱協議について前向きな発言をしたことから、ポンドは持ち直しの動きが見られた。

11月以降も引き続きEU離脱に関する協議の進展が注目される。離脱移行期限は12月末であるが、実務的には11月末が交渉の期限となる。交渉決裂には至らず部分的合意に達する可能性が高いとみる。一時的には買い戻しの動きが入るが、合意対象外の品目の関税が上昇するなど経済への影響も懸念され上値が重い展開。加えて、景気悪化などを背景とした英中銀の追加緩和観測もポンドの下押し要因となろう。

豪ドル・NZドル



豪ドル円	豪ドル円は下落	72.50 - 76.00円
NZドル円	NZドル円は下落	67.00 - 71.50円

豪ドル円、NZドル円は下落を予想

10月に入り豪ドルは堅調な中国の経済指標を受け底堅く推移する場面もあったが、豪中銀の口ウ総裁が追加緩和の可能性について示唆したことを受け下落に転じた。コロナ対応を巡る対立から中国が豪州産の石炭輸入を停止するなど豪中関係の悪化も豪ドル円の重石となった。NZドル円は10/17に総選挙で与党労働党が単独過半数を取る圧勝となったが為替への影響は限定的となり、狭いレンジ内での推移となった。

11月のオセアニア通貨は上値の重い展開を予想。3日に行われる米国大統領選挙の結果が波乱含みであることや欧米で再びコロナ感染が拡大していることが上値を抑えよう。また、豪中銀は3日決定会合で利下げが見込まれているほか、NZ中銀もマイナス金利導入に前向きな姿勢を見せていることも両通貨に重石。中国経済が順調に回復しているが、豪中対立が深刻であり積極的な買い材料とはなりにくい。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

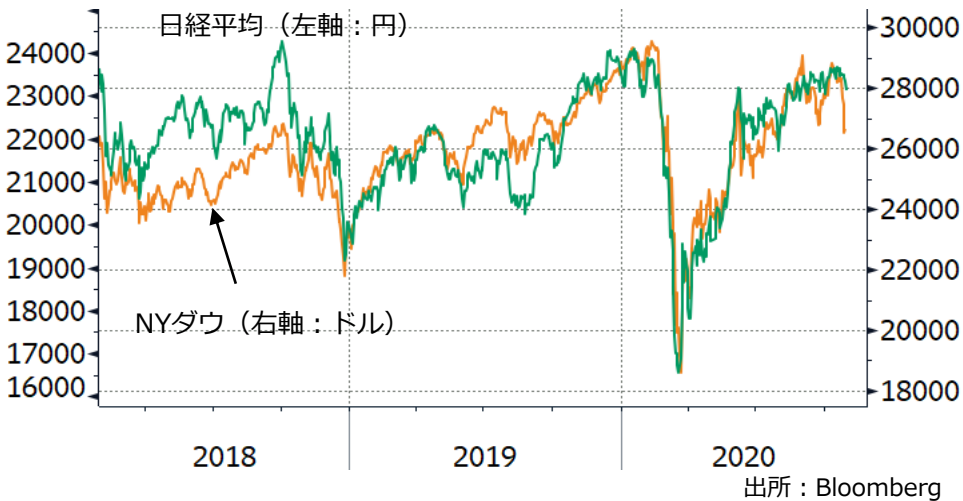
© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は上昇

22,000 - 24,000円

日本株は上昇を予想

欧米でコロナ感染が再拡大し株価が大幅に下落となる中でも、日本株は底堅い値動きが継続している。米国大統領選で大きな混乱が起これなければ、底堅い動きが継続しやすいと見る。3月決算企業の上半期決算発表が本格化するが、堅調な企業業績が確認できれば株価は底堅い推移となろう。欧米対比コロナ感染が落ち着いていることもポジティブ。

NYダウ



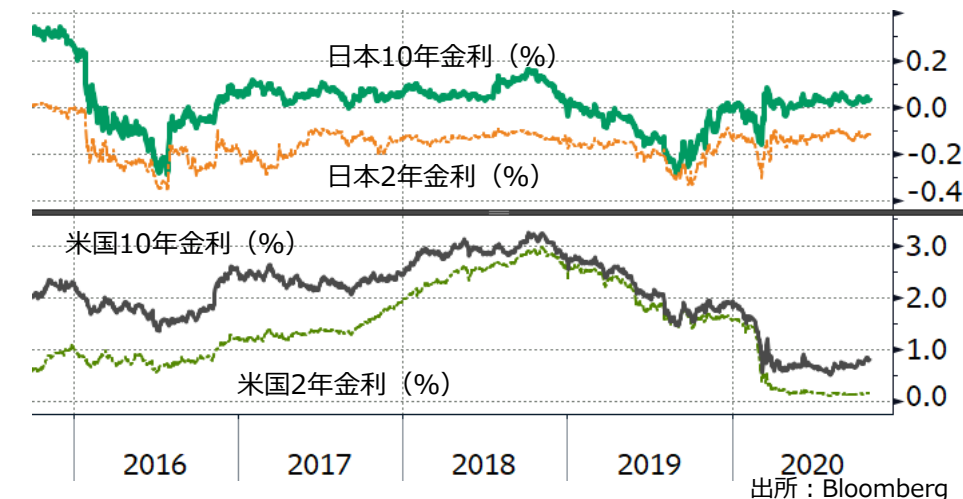
ダウは上昇

25,000 - 29,000ドル

米国株は上昇を予想

今月の株価は大統領選の結果に大きく左右されよう。市場は大統領、上下院を民主党が制す「ブルーウェーブ」を一時織り込む動きもあったが、足元欧米でのコロナ感染再拡大を受け上値が重くなっている。大統領選が終了すれば不透明感の払しょくから、株価は底堅さを取り戻すだろう。一方、今回の選挙戦では郵便投票の混乱からなかなか結果が出ないといったリスクもはらむ。また、「ブルーウェーブ」でない場合は追加の経済対策の成立にも影響を及ぼすため、上値を抑えよう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は上昇

0.00 - 0.08%

日本国債は金利上昇を予想。

国内固有の要因に乏しく米金利連動での小幅な動きが続いているが、11月には菅政権が第3次補正予算の編成を含む追加経済対策に本格的に着手すると伝わる。財政拡張が意識されれば金利上昇圧力となりうるが、日銀の国債買入も意識されて上昇余地は限定的だろう。

米国債10年



金利は上昇

0.75 - 0.90%

米国債は金利上昇を予想。

財政拡張による国債の増発が意識され金利が上昇しやすい。追加財政協議は、議会がレームダック期間となり年内に決まらない可能性はあるが、いずれは成立するとの見方が優勢となるであろう。可能性としては低い、大統領選候補者が結果を受け入れず、長期間にわたり選挙結果が判明しないリスクには注意が必要。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		10/29		11月の予想	10月のレビュー	11月の見通し
中国	人民元/円	15.58	➡	15.3~16.0	10月是对ドルで上昇、対円ではほぼ横ばい圏となった。中国経済の強さ等からドル人民元は6.65円を割り込んで元高が進む場面もみられたが、月末にかけては欧米のコロナ感染拡大等によるリスク回避でドルが買い戻され値を戻した。10/10に中国人民銀行は為替予約取引に対する準備金要件を変更、急ピッチなドル高進行への一定の歯止めとなった。	強いファンダメンタルズを背景として人民元相場の底堅い展開は続くだろう。11/3の米国大統領選もポイント、コンセンサス通りバイデン氏が大統領に就任すれば米中間の関税問題が撤廃されるとの期待も生じ人民元相場の下支えとなろう。一方で、当局は今週人民元設定基準の変更をし、急ピッチの人民元高は望んでいないことを示唆。一層の元高余地は限定的だろう。
	ドル/人民元	6.72	➡	6.60~6.85		
タイ	バーツ/円	3.35	➡	3.25~3.40	10月前半のバーツ相場は9月後半の政局不安によるバーツ安を巻き戻す動きとなり、一時1ドル31.0バーツに迫る場面もみられた。一方で節目の水準に迫ると、反政府デモの激化等が再度意識されバーツの上値は抑制された。対円では一時バーツ高進行も月末にかけてのリスクオフの円高で概ね横ばい圏となった。	反政府デモによる政局混乱は依然として続くものの、バーツ相場は底堅い展開が続くだろう。タイの政局混乱は定期的に発生しており、経済への打撃は限定的との見方もあるとみられる。今後も政局混乱の行方を見極めつつ、内外での新型コロナ感染による影響を注視する必要があるだろう。大統領選後のドル高を予想しておりドルバーツは上昇を予想する。
	ドル/バーツ	31.24	➡	31.0~32.0		
インドネシア	ルピア/円	0.712	➡	0.68~0.74	10月のインドネシアルピアは、5日に外資規制の緩和等を盛り込んだ雇用創出オムニバス法が議会で可決されたことから上昇後、狭いレンジ内での横ばい推移となった。13日の金融政策決定会合では、引き続きルピア相場を下支えするため政策金利は据え置かれた。対円でも対ドルと同様の値動き。	今月は米大統領選結果を巡る不透明感や、欧米でのコロナ感染の再拡大がルピアの上値を押さえよう。また中銀総裁は低水準のインフレ率と、弱い経済指標から追加緩和の余地があるとしており、11月会合での議論が注目される。一方、国内の感染がピークアウトしつつあることから、先月12日より首都の社会制限措置が再び緩和されていることはポジティブ。
	ドル/ルピア	14,625	➡	14,500~15,200		
インド	ルピー/円	1.41	➡	1.38~1.45	10月のインドルピーは月初に上昇後、月末にかけて緩やかに下落した。インド中銀がフォワードガイダンスを強化し、ハト派姿勢を示したほか、欧米でコロナ感染が再拡大しており、リスク回避的に売られた。活発な海外からの資金流入を背景に高値圏にあるインド株が、10月中旬以降横ばい推移となっていることも重石と見られる。対円でも対ドルと同様の値動き。	インフレの高まりからインド中銀は利下げに踏み込みづらい状況が続いているが、インフレが落ち着けば追加の利下げが見込まれ、インドルピーには重石。また、米大統領選の結果をめぐる不透明感や、欧米でのコロナ感染の再拡大等の不透明感からリスク回避的な動きとなりやすいことも下押し材料。一方、旺盛なインド市場への資金流入は、引き続きルピーの下支えとなろう。
	ドル/ルピー	74.11	➡	73.0~75.0		

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨（中南米・ロシア）

		10/29		11月の予想	10月のレビュー	11月の見通し
ブラジル	リアル/円	18.10	➡	17.7～19.2	10月のブラジルリアルは、対ドル、対円ともに小幅のレンジ内での安定した動き。コロナの感染は8月をピークに徐々に減少、足元の日次の感染者数はピーク時の半分以下になっている。財政規律については10月初旬にIMFよりリスクがあると指摘されているが、現時点ではインフレ率の急上昇などは見られず安定している。	ブラジルリアルは横ばいを予想。小売や生産などの経済指標には挽回需要の一巡が見られるがおおむね堅調に推移。世界的に金融市場が安定しており、資金流出懸念も出づらいつながり状況が続くであろう。一方、拡張的財政により足元で長い年限の金利は上昇傾向にあり、利払い負担の増加については懸念される。
	ドル/リアル	5.78	➡	5.50～5.95		
メキシコ	ペソ/円	4.90	➡	4.80～5.40	10月のメキシコペソは、米国の大統領選でバイデン候補が勝つ可能性が高まったことで、米国のメキシコへの対応が軟化すると期待から上昇。月後半は、欧州でのコロナ感染拡大によるロックダウンを背景に主要国の株価が下落、新興国痛から資金が退避しメキシコペソも下落した。	メキシコペソは上昇を予想。米国の大統領選ではバイデン候補が勝利すると予想する。バイデン氏が大統領となった場合、メキシコ国境の壁問題などトランプ氏に比べメキシコへの対応は軟化するとみる。また、足元で消費者物価は中央銀行が目標とレンジをやや上回り、中銀は今後更なる緩和には踏み込みづらいつながり状況。経済指標にも回復がみられ、メキシコペソは堅調な推移を予想。
	ドル/ペソ	21.36	➡	20.5～23.0		
ロシア	ルーブル/円	1.33	➡	1.28～1.38	10月のロシアルーブルは、6月以降続いていたルーブル安が一服し、ほぼ横ばい圏。10月の金融政策決定会合では、市場予想通り政策金利の据え置きを決定したが、先行き追加の利下げの可能性を明記した。原油価格もさえず、ルーブルの上値は重かった。	ロシアルーブルは10月同様に横ばいが続く予想。10月の金融政策決定会合の結果からは当面利下げの可能性は低いと示唆され、ルーブルは底堅く推移するとみる。同国内でのコロナ感染拡大や世界的なロックダウンによる原油価格の大幅下落には注意が必要。
	ドル/ルーブル	78.90	➡	76.0～81.0		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

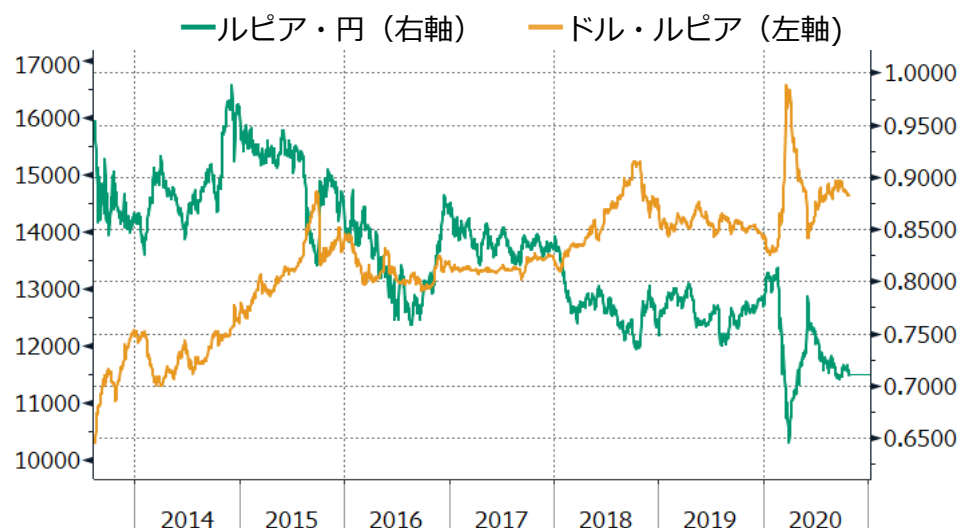
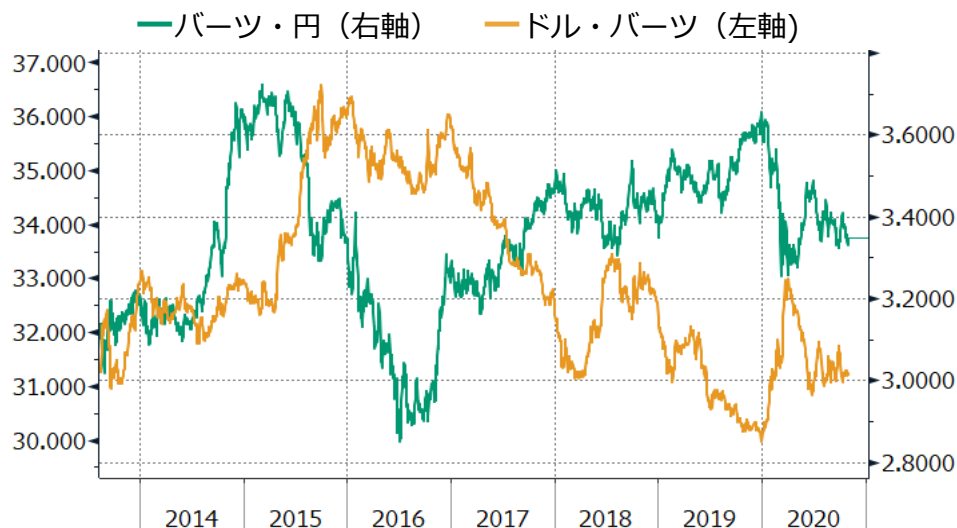
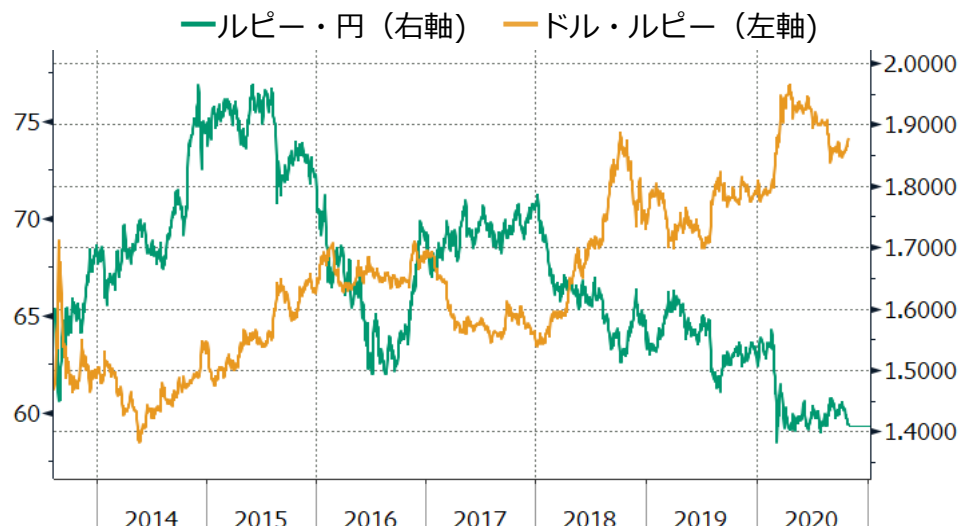
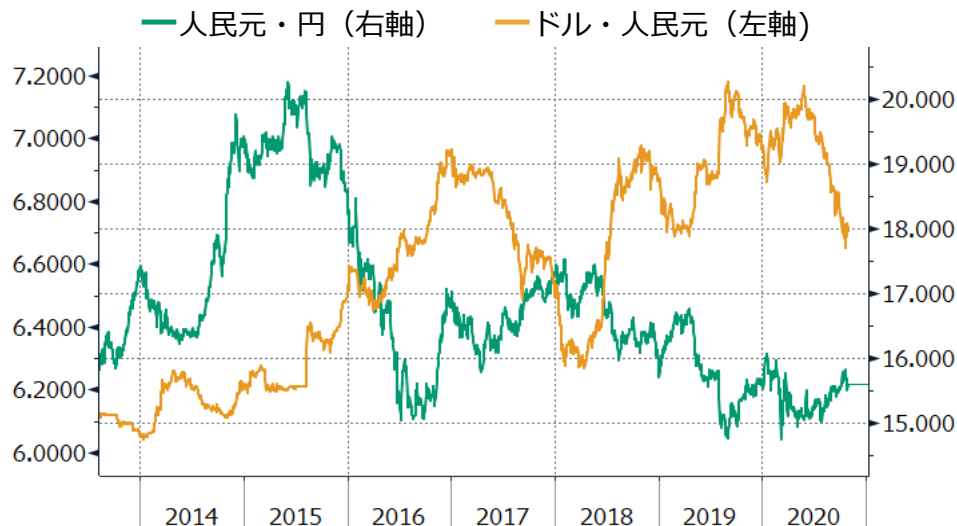
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

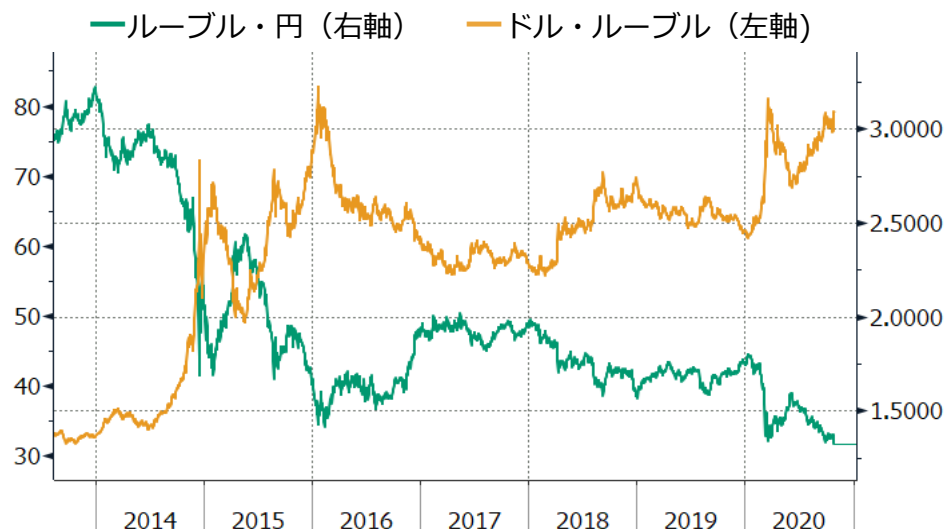
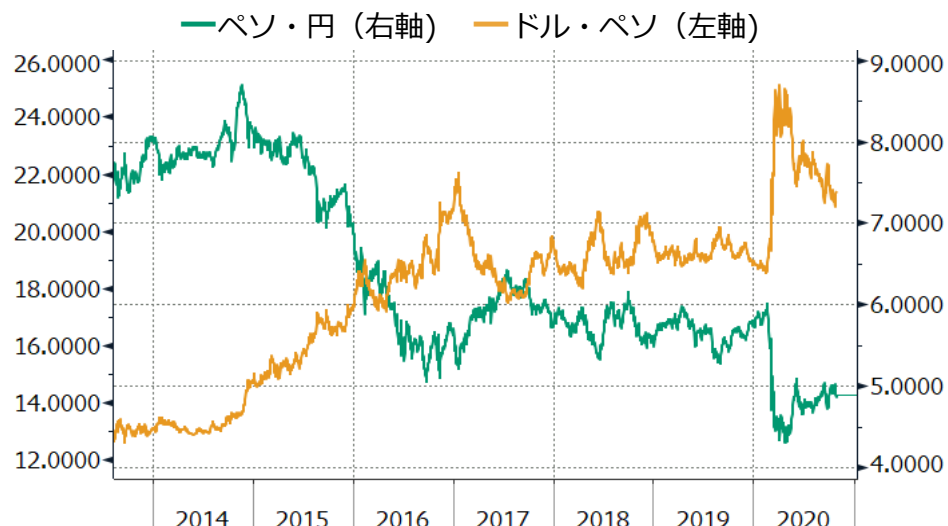
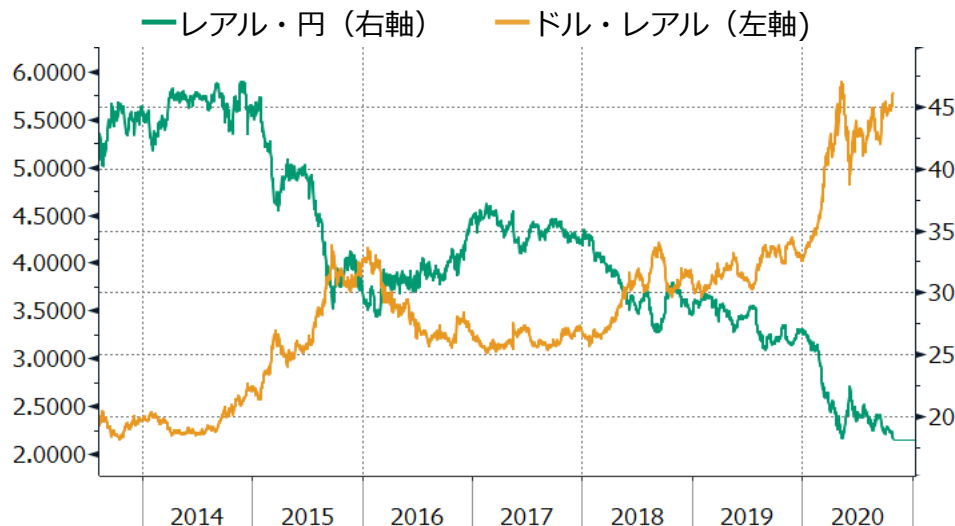
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他		日本	米国	その他
11/1(日)		(夏時間終了)		11/16(月)	7-9月期GDP1次速報値 9月稼働率 流動性供給入札(残存期間5年 超15.5年以下)	11月NY連銀製造業景況指数	(中) 10月固定資産投資 (中) 10月鉱工業生産 (中) 10月小売売上高
11/2(月)		10月ISM製造業景況感指数 9月建設支出		11/17(火)		10月鉱工業生産 10月小売売上高 10月輸入物価指数 9月企業在庫 9月対米証券投資	
11/3(火)	(文化の日)		(豪) 準備銀行理事会	11/18(水)	10月貿易統計 20年債入札	10月住宅着工	
11/4(水)	10月マネタリーベース 10年債入札 日銀金融政策決定会合議事要旨 (9/16~17開催分)	10月ADP民間雇用調査 9月貿易収支 FOMC(~5日)		11/19(木)	国庫短期証券(1年)	10月景気先行指数 10月中古住宅販売件数 11月フィラデルフィア連銀製 造業景況指数	
11/5(木)			(EU) 9月小売売上高 (英) BOE金融政策委員会 (中) 10月貿易統計	11/20(金)	10月CPI 国庫短期証券(3ヶ月) 流動性供給入札(残存期間1年 超5年以下)		
11/6(金)	10年物価連動国債 9月毎月勤労統計 国庫短期証券(3ヶ月)	10月雇用統計 9月消費者信用残高		11/21(土)			G20サミット(~22日、リヤ ド)
11/9(月)	9月景気動向指数 国庫短期証券(6ヶ月)			11/23(月)	(勤労感謝の日)	10月シカゴ連銀全米活動指数	(EU) 11月ユーロ圏PMI
11/10(火)	10月景気ウォッチャー調査 10月貸出・預金動向 30年債入札 9月国際収支		(中) 10月CPI (独) 11月ZEW景気期待指数	11/24(火)	国庫短期証券(6ヶ月)	11月リッチモンド連銀製造業 景況指数 9月S&P700/ダウCS住宅価格指 数	(独) 11月IFO景況指数
11/11(水)	10月マネーストック	(退役軍人の日)	(NZ) 準備銀行理事会	11/25(水)	40年債入札	10月個人所得・消費支出 10月新築住宅販売 7-9月期GDP改定値 (感謝祭)	
11/12(木)	5年債入札 9月機械受注 9月第3次産業活動指数	10月CPI 10月財政収支	(EU) 9月鉱工業生産	11/26(木)			
11/13(金)	国庫短期証券(3ヶ月)		(EU) 7-9月期四半期GDP	11/27(金)	2年債入札 国庫短期証券(3ヶ月)		
				11/30(月)	10月鉱工業生産 10月住宅着工件数		(中) 11月PMI製造業

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/9 ~ 15】

◎ 9月貿易額4カ月連続増加

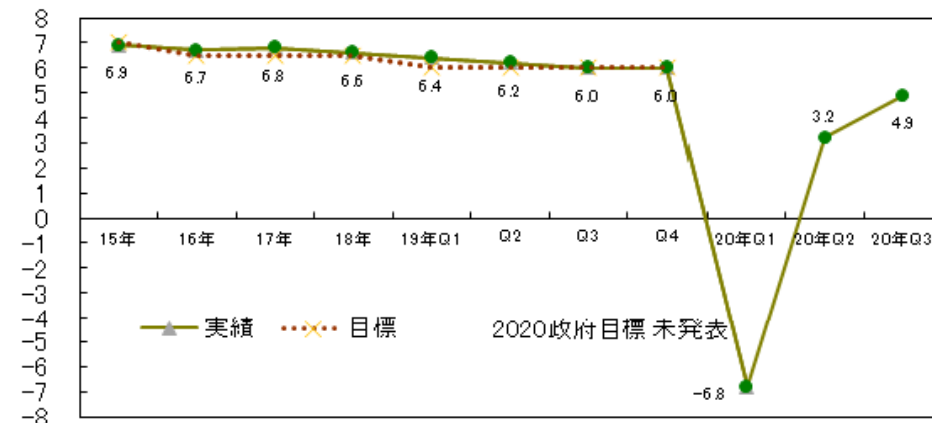
中国税関総署の統計データによると、9月の貿易額は前年同月比11.4%増加し、4カ月連続のプラス成長となった。内訳としては、輸出は9.9%増、輸入は13.2%増となった。米中間の貿易額は前年同月比21.5%増加した。うち、輸出と輸入はそれぞれ20.5%増、24.7%増となった。日中間の貿易額は前年同月比6.0%増加した。うち、輸出は2.7%減少、輸入は13.4%増加となった。なお、1-9月累計の貿易額は前年同期比1.8%減少したものの、減少率は1-8月に比べ1.8ポイント縮小した。

【10/16 ~ 22】

◎ 1~9月のGDPは0.7%増今年初のプラス成長に転換

中国国家統計局によると、第3四半期のGDPは4.9%増で、2カ月連続のプラス成長となった。また、1~9月のGDPは前年同期比0.7%増で、今年初のプラス転換となった。第1~3次産業の伸び率はそれぞれ2.3%、0.9%、0.4%で、マイナス成長が続いた第2次産業と第3次産業はプラス成長に転じた。一方で、個人消費指標となる社会小売総額は7.2%減と依然として低迷している。第4半期の見通しについて、「現在のペースを維持できる」と同局報道官が述べた。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/23 ~ 29】

◎ 5G利用者1.6億人に69万カ所の基地局が完成

中国工業情報省は第5世代（5G）移動通信システムのネットワークに接続した5G端末の台数が、今月の19日までで1億6,000万台を超えたことを発表した。6月末時点での5Gネットワーク接続端末数は6,600万台で、3カ月余りでユーザー数が約1億人増加したことになる。また、年初には今年中に50万カ所の基地局を設置する計画を掲げていたが、前倒しで既に69万カ所の基地局が完成。9月末時点での通信分野の固定資産投資も前年同期比で16.5%増加した。

◎ 交通投資、貨物輸送は回復旅客輸送は前年比半減

中国交通運輸省は定例会見で、交通分野の固定資産投資（1月～9月）が前年同期比9.8%増の2兆5,100億元だったと発表した。そのうち、道路及び水路への投資は1兆8,800億元で、既に3カ月前倒しで年初目標を達成。また、実態経済を反映する貨物輸送量は、327億8,000万トンで、前年同期比3.3%の減少にとどまっている。一方、旅客輸送は貨物輸送に比べ回復が遅れており、輸送量は前年同期比49%減少となっている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2019/11	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9
実質GDP成長率	%	-	6.0	-	-	-6.8	-	-	3.2	-	-	4.9
消費者物価上昇率	%	4.5	4.5	5.4	5.2	4.3	3.3	2.4	2.5	2.7	2.4	1.7
失業率	%	-	3.6	-	-	3.7	-	-	3.8	-	-	-
輸出額	10億ドル	221.4	238.6	-	-	185.1	200.1	207.1	213.6	237.6	235.3	239.8
輸入額	10億ドル	184.3	191.4	-	-	165.1	154.9	144.1	167.2	175.3	176.3	202.8
経常収支	100万ドル	-	141,336	-	-	-33,696	-	-	76,472	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,095.6	3,107.9	3,115.5	3,106.7	3,060.6	3,091.5	3,101.7	3,112.3	3,154.4	3,164.6	3,142.6
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.02	7.01	6.92	7.00	7.02	7.07	7.11	7.08	7.01	6.93	6.81

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○デジタル人民元の「顔」

深セン市では今週、総額1000万元（約1億5700万円）のデジタル人民元が抽選に当選した5万人の市民に配布されました。一般公衆への公開配布は初めてです。

当選者は、通知メールに記載されるリンクに基づいて専用アプリをダウンロードし、200元（約3100円）分のデジタル人民元の「紅包」（ラッキーマネー）を受け取り、同市羅湖区内3000店以上の小売店で使うことができます。

利用者からは、「操作は電子決済アプリとほぼ変わらないが、期待していた通信を必要としないオンラインでの支払はまだ対応できないところが少し残念だ」という意見があがりました。

また、今回の実証に参加した金融機関は大手国有銀行のみでしたが、専用アプリに提示された「個人情報保護政策」や「利用者協議書」の内容には、デジタル決済業者などの名も挙げられていることが分かりました。従って、商業銀行のみならず、民間金融機関も今後デジタル人民元決済に参入可能になることが推察されます。

○自動運転タクシーが正式に登場

中国のIT大手企業が北京で自動運転タクシーサービスを開始することを発表しました。

サービス提供可能なエリアは同市の海淀区と北京経済技術開発区という二つのエリアに限定されており、路線距離は約700キロに達すると報じられています。また、タクシーの利用は予約制で、アプリを通じて、事前予約や乗車後の相互認証手続きが必要となるようです。

一方、自動運転タクシーとはいえ、完全な無人運転ではなく、車両ごとに1名の「安全員」が添乗しているようです。安全員は運転せず、技術セキュリティ面の保証として設置したと同社関係者が語りました。

同社は去年12月、北京市の自動運転車両道路テスト運行ライセンスを取得し、今回のサービスを開始するまでに、51.9万キロメートルのテスト運行を完了しました。5Gを含む技術面の向上や法律法規面の整備が推進していくことが予想されるので、将来的にはより多くのエリアで展開することが見込まれます。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2020年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2020年8月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は小幅改善した。工業生産指数は前年同月比9.3%、民間投資指数は同4.6%とそれぞれ低下したが、落ち込み幅が縮小した。公共投資も拡大。個人消費指数は同1.1%減少した。7月の祝日増加のプラス効果がなくなったことで、7月比では低下幅が拡大した。観光部門は入国制限により、5カ月連続でゼロとなった。

◆タイ商業省によると、2020年8月の輸出額は前年同月比7.9%減の202億1,235万米ドル。マイナス成長は4カ月連続だったが、下落率が1桁台に縮小した。在宅勤務関連製品、新型コロナウイルス防止関連物資等は引き続き順調に伸びている。農産物・加工品の輸出は前年同月比13.2%減、工業製品は同6.2%減。電気製品・同部品、ゴム手袋は増加したが、自動車・同部品、電子製品・同部品、石油関連製品等は減少した。市場別では、米国、シンガポール、香港、オランダ向けの輸出額がでプラス成長。日本、中国、欧州連合（EU）、インド向けはいずれも減少した。輸入額は同19.7%減の158億6,298万米ドル。この結果、貿易収支は

43億4,937万米ドルの黒字となった。今年1～8月の輸出額は前年同期比7.8%減の1,533億7,478万米ドルだった。一方、8月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル＝31.12パーツで、前月の31.19パーツ比わずかにパーツ高となった。

◆タイ中央銀行は23日、政策金利の翌日物レポ金利を年0.50%に据え置くことを決定した。また、2020年の国内総生産（GDP）成長率予測を前年比8.1%減（6月時点の予測）から7.8%減へ修正した。今年第2四半期（4～6月）のGDP収縮幅が当初の予測を下回ったこと等が挙げられる。

◆タイ商業省が発表した9月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比0.70%下落した。前年同月を下回ったのは7カ月連続。燃料石油価格の下落が挙げられる。食品・飲料は同1.42%上昇した。特に、生鮮野菜の値上がりが目立った。非食品は同1.94%下落。また、今年1～9月のCPI平均値は前年同期比0.99%下落した。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2019/11	2019/12	2020/1	2020/2	2020/3	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9
実質GDP成長率	%	-	1.5	-	-	-2.0	-	-	-12.2	-	-	-
消費者物価上昇率	%	0.2	0.9	1.1	0.7	-0.5	-3.0	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7
失業率	%	1.1	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	2.2	1.9	-
輸出額	100万ドル	19,649	19,179	19,626	20,642	22,405	18,948	16,278	16,444	18,819	20,212	-
輸入額	100万ドル	19,108	18,451	21,181	16,744	20,813	16,486	13,584	14,834	15,476	15,863	-
経常収支	100万ドル	3,052	4,204	3,092	5,178	623		726	-51	1,736	2,996	-
外貨準備高	10億ドル	221.0	224.3	230.3	229.5	226.5	235.7	237.3	241.6	250.4	253.5	251.4
主要政策金利	%	1.25	1.25	1.25	1.00	0.75	0.75	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	パーツ	30.2	30.2	30.5	31.3	32.1	32.6	32.0	31.2	31.4	31.2	31.4

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レポ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



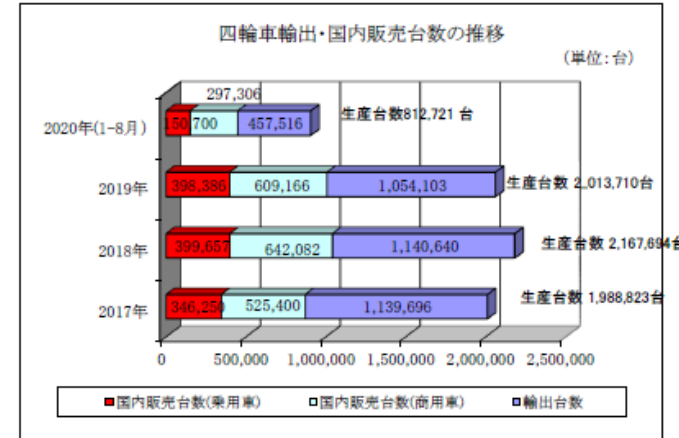
りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2020年11月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

出所:タイ工業連盟 (FTI)

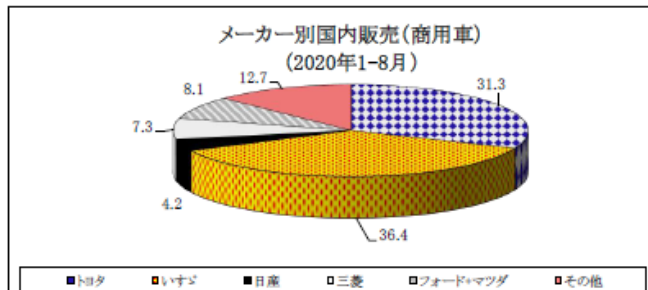
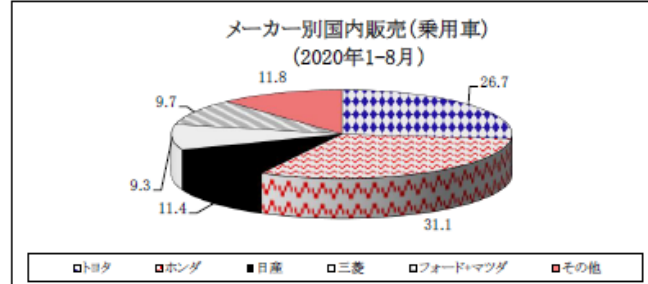
		2017年	2018年	2019年	2020年 (1-8月)	前年同期比 (%)	8月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	826,787	884,609	804,340	308,140	54.9	45,094
	商用車	1,162,036	1,283,085	1,209,370	504,581	59.9	72,159
	合計	1,988,823	2,167,694	2,013,710	812,721	57.9	117,253
	国内販売台数						
	乗用車	346,250	399,657	398,386	150,700	59.3	21,300
二輪	輸出台数						
	乗用車	525,400	642,082	609,166	297,306	71.9	47,583
	合計	871,650	1,041,739	1,007,552	448,006	67.1	68,883
	輸出台数	1,139,696	1,140,640	1,054,103	457,516	63.2	57,402
	生産台数	2,055,193	2,063,076	1,948,480	939,370	72.9	137,847
	国内販売台数	1,810,771	1,788,323	1,718,587	1,012,426	84.9	143,424
【完成車輸出金額】 (百万バート)							
四輪		603,038	594,810	545,968	251,457	67.7	34,629
二輪		54,828	61,654	69,933	37,609	78.3	3,433



【メーカー別国内販売台数】

出所:トヨタ自動車

		2017年	シェア (%)	2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年 (1-8月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	8月
トヨタ	乗用車	96,606	27.9	112,394	28.1	117,708	29.5	40,246	50.9	26.7	5,278
	商用車	143,531	27.3	202,719	31.6	214,672	35.2	93,128	64.1	31.3	16,321
	合計	240,137	27.5	315,113	30.2	332,380	33.0	133,374	59.4	29.8	21,599
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	160,550	30.6	177,864	27.7	168,215	27.6	108,088	93.7	36.4	16,557
	合計	160,550	18.4	177,864	17.1	168,215	16.7	108,088	93.7	24.1	16,557
ホンダ	乗用車	95,078	27.5	95,793	24.0	96,154	24.1	46,834	70.4	31.1	7,099
	商用車	32,690	6.2	32,497	5.1	29,679	4.9	9,136	43.8	3.1	1,511
	合計	127,768	14.7	128,290	12.3	125,833	12.5	55,970	64.1	12.5	8,610
日産	乗用車	35,283	10.2	43,991	11.0	35,809	9.0	17,109	68.0	11.4	2,332
	商用車	24,426	4.6	28,403	4.4	28,605	4.7	12,509	64.4	4.2	1,784
	合計	59,709	6.9	72,394	6.9	64,414	6.4	29,618	66.4	6.6	4,116
三菱	乗用車	22,833	6.6	31,594	7.9	38,879	9.8	13,956	52.5	9.3	1,790
	商用車	46,904	8.9	52,966	8.2	49,365	8.1	21,705	65.3	7.3	3,189
	合計	69,737	8.0	84,560	8.1	88,244	8.8	35,661	59.6	8.0	4,979
その他	乗用車	96,450	27.8	115,885	29.0	109,836	27.6	32,555	43.4	21.5	4,801
	商用車	117,299	22.4	147,633	23.0	118,630	19.5	52,740	66.7	17.7	8,221
	合計	213,749	24.5	263,518	25.4	228,466	22.7	85,295	55.3	19.0	13,022
合計	乗用車	346,250	100.0	399,657	100.0	398,386	100.0	150,700	59.3	100.0	21,300
	商用車	525,400	100.0	642,082	100.0	609,166	100.0	297,306	71.9	100.0	47,583
	合計	871,650	100.0	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	448,006	67.1	100.0	68,883



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。